

# 第30回 世界遺産検定 マイスター試験 講評 および 学習方法

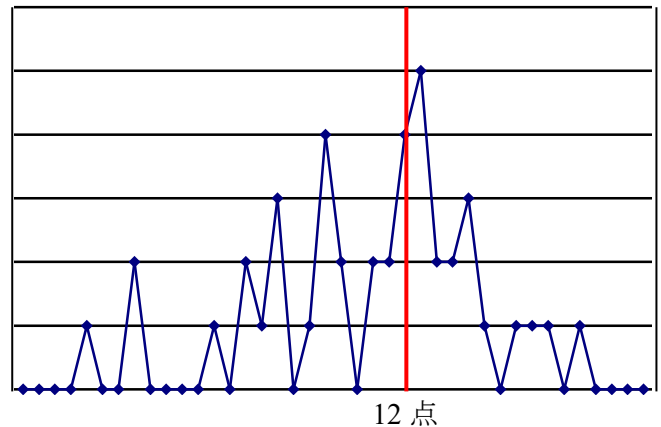
1. 実施概要    2. 認定点と分布    3. 問題    4. 総評    5. 各問の短評と学習法

## 1. 実施概要

検 定 日：2017年12月17日（日）  
検定会場：東京・名古屋・大阪  
検定時間：120分  
解答形式：論述形式（記述）  
申込人数：44名  
受検人数：42名  
認定者数：21名（認定率50.0%）

## 2. 認定点

認定点：12点（20点満点）  
最高点：18.0点  
最低点：2.5点



## 3. 問 題

1 次の語句を簡潔に説明しなさい。

- 登録基準 (ii)
- 負の遺産
- 世界遺産基金

2 世界遺産条約について、次の語句をすべて使って、400字以内で説明しなさい。なお、解答中の次の語句の使用箇所には下線を引きなさい。

ユネスコ                      顕著な普遍的価値  
国際社会                      教育・広報活動

3 アメリカ合衆国やイスラエル国のユネスコ脱退発表を踏まえ、現在のユネスコの世界遺産活動が抱える問題点として考えられる点とその改善案を、「世界遺産」の具体例を示しつつ、1,200字以内で論じなさい。（\*「無形文化遺産」や「セカイの記憶」を論点の中心としないこと。）

## 4. 総 評

近年、マイスター試験の受検者は問題への対策がよくなされていると感じる。1、2の解答は特に高い点数がついており、今回も8割の受検者が1と2で認定点に達していた。ただ、2において、使用指定語句を列記しただけの解答と、世界遺産条約の中でその語句がもつ意味まで踏み込んだ解答とでは、点数に差が出ていた。3は「問題点」と「改善案」の両方を論述することが求められていたのに対し、「問題点」のみに重点が置かれ「改善案」についてはほとんど触れられていない解答も少なくなく、大きなニュースとなった今回のアメリカ合衆国等のユネスコ脱退について、自分なりに考えていたかどうかを解答から垣間見えた。「問題点」は、ある程度メディアや識者のコメントなどから考えることが可能であるが、「改善案」については独自の考えが求められるためだ。改行や段落あけなど文章としての体裁が不十分である解答も相変わらず少なくなく、対策が求められる。

## 5. 各問の短評と学習法

1

短評：それぞれの語句を約 50 文字以内で説明する問題。比較的によく解けていた。このところ登録基準がよく出題されており、各登録基準で重要な点がどこなのかを抑えておく必要がある。また「負の遺産」は世界遺産条約に定義されておらず、その点を記述することも加点のポイントであった。1 は、世界遺産を知らない人に説明するイメージで臨むとよいと考えられる。

学習法：このように少ない文字数で要約する場合、ポイントとなる語句をはずさないようにする。間違っていないが本質ではない点をいくら並べても説明としては不十分なので、学習の際には、**それぞれの語句の最重要ポイントがどこであるかを考えながら、キーワードを正しくつかむ**ことが重要である。

2

短評：指定語句を用いて重要なキーワードを説明する問題。この問題の指定語句は基本的かつ重要なものが多く、そのまま列記しても世界遺産条約の説明は可能であるが、それでは世界遺産条約の特徴がどこにあるのかが曖昧になってしまう。この問題に対する受検者の対策がとられている一方で、それぞれの語句に対する掘り下げが足りず、なぜこの語句が指定語句になっているのか理解できていないと感じさせる解答が少なくなかった。これは今回に限ったことではない。

学習法：書く前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。「世界遺産条約」を説明するのに必要なキーワードを書き出し、それを組み替えながら全体のプロットを考える。問題中の**使用指定語句は、どのような解答が求められているかのヒント**であるといえる。学習の段階では、重要語句のキーワードやポイントを抜き出しておくといよい。また「世界遺産条約」の意義や目的、採択の背景なども理解し、それを限られた文字数と指定語句の中に加えられるよう、自分なりのまとめなおしが必要である。そのためには、**文章ではなく語句で覚えて**おき、問題に合わせて語句を組み合わせるようになるのが重要である。また、指定文字数の 8 割を書かないと減点の対象となる。

3

短評：世界遺産に関するテーマについて、独自の意見を論理的に論ずる問題。今回はアメリカ合衆国やイスラエル国のユネスコ脱退という、直前に大きな話題となっていたテーマが出題されたこともあり、全体的外れな解答というものは少なかった。しかし、総評でも書いたように、「改善案」についてしっかりと自分の意見を述べられている人は少なく、認定者の中でも点数が分かれたのはそのためであった。また「問題点」においても、アメリカ合衆国などが分担金の拠出を止めていることが、ユネスコ活動の資金不足を引き起こしているだけではなく、その資金不足がどのような問題につながっているのかまで踏み込んで論述している解答には、高い点数がつけられた。

学習法：1,200 字というかなり長い論述問題の場合は、書き始める前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。その時に、**序論・本論・結論のスタイル**にするのか、まず**結論を書いてから後で説明するスタイル**にするのか決め、全体を見ながら、それに沿うようにキーワードなどの箇条書きでプロットを作る。それに肉付けする形で、書き上げてゆく。世界遺産条約から大きく外れた出題はないので、ある程度共通して使える要素も準備しておくといよい。論述問題では「**正解**」というものはない。いかに自分の意見を論理的に述べられるかが高得点の鍵となる。当然、**自分の考えを述べる時には、思い込みではない正確な情報で根拠を示す**必要がある。文字数指定があるので、最低でもその 8 割は必ず書くようにする。